

# 下呂市立金山病院 経営強化プランの見直しについて

参考資料10-1

計画期間：令和6年度から令和9年度まで

## 経緯

下呂市立金山病院経営強化プランについて、令和6年9月に開催した飛騨圏域地域医療構想等調整会議においてご協議いただいたところであるが、今般、実働看護師が不足（退職・非正規職員の増加等）し、その確保に見込みがたたないことから、入院機能を維持するため病棟再編を行い、プランの記載事項である「機能ごとの病床数」の見直しを行った。

## 病床数見直しの考え方

近年の病院全体の1日平均入院患者数は、53人（R2）、45人（R3）、45人（R4）、41人（R5）と推移しており、令和6年度は40人を下回る見込みとなっている。また、診療圏の人口は5年ごとに10%の減少が見込まれることから、将来的に50床を超えることは考え難い。

## 役割・機能の最適化と病床機能の見直し

抜本的な医師・医療従事者不足、医療圏による偏在が解消されない中、地域における医療提供体制を維持していくためには、限られた医療資源を地域全体で活用する必要がある。当院においては、これまでの救急医療、へき地医療、および小児医療の機能を維持しつつ、病床機能においては県立下呂温泉病院との連携協定のもと、地域包括ケア病床を中心に回復期に特化した形で同院の後方支援を担うこととする。また、訪問診療や訪問リハビリなどの在宅医療へ資源を集中させ、関連機関との更なる連携のもと、地域包括ケアシステムを構築していく。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
当初（計画時）		44	6	49	99
2025年（変更前）		34	16	49	99
2025年（変更後）			50		50

## 地域医療構想との整合性

今回の病床数の変更については、2025年の必要病床数に対して過剰となっている急性期病床を削減するものである。また、不足している慢性期病床を削減するが、圏域内において最も連携を密にする県立下呂温泉病院が先に慢性期病床を追加するなどし、地域の実情に合わせて削減するものであり、引き続き、プランの内容は地域医療構想と整合的である。